

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.05 **MOTEGI**

第5戦 モビリティリゾートもてぎ

2024年8月24日(土)

予選

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選：11番手

#39 大湯 都史樹

予選：3番手

大湯都史樹の表彰台獲得に沸いた第4戦富士から約1ヶ月。2024年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、栃木県のモビリティリゾートもてぎで第5戦を迎えた。例年真夏に行われる一戦だが、近年は酷暑の影響もあり、ドライバーにもスタッフにも厳しい一戦だ。

そんなレースに向け、チームは8月23日(金)からサーキットで準備を進めた。大湯のさらなるポテンシャルアップはもちろんだが、前戦富士ではたび重なるトラブルに見舞われてしまった阪口晴南の車両にはしっかりと対策を施し、2台そろっての上位進出を目指した。

PRACTICE フリー走行

8月24日(土) 8:55~10:25 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'32.775 / #39 大湯都史樹 1'32.634

迎えた8月24日(土)の予選日、モビリティリゾートもてぎは朝から雲が多いものの、湿度が高く厳しい暑さのなか午前8時55分からフリー走行がスタートした。

第4戦富士から好調をキープする大湯は、コースイン後ピットアウト～インを繰り返しながらセットアップを進めていった。大湯の感触は前戦から変わらず良好で、「悪くない感触がありますね。予選トップ3に入れる手ごたえがあります」とフリー走行後には笑顔もみせた。

ただ、「ポールポジションを獲れるような感触ではありません」という。20周目、1分32秒634までタイムを縮め、一時はタイミングモニターの最上位につけたが、チェッカー間際にタイムを伸ばしたライバルたちの前に4番手でフリー走行を終えていた。

「もてぎは得意意識があるわけではないのですが、いつも結果が良いコースです。ただ、ポールポジションを獲るためには細かい部分がいろいろあるので、その点を詰められるかどうかですね」と大湯は午後の公式予選に向けて語った。

一方の阪口も合計7回のピットアウト～インを行いつつ、セットアップを進めた。チームの準備の成果もあり、このフリー走行ではまったくトラブルは出ず。ただ、最後に履いた

ニュータイヤでは「満足いくような状況ではありませんでした。予選ではトップ10に入れるかどうか」というパフォーマンス。とはいえ1分32秒775というベストタイムで8番手となった。ただ一方でポジティブなのはユーズドタイヤでの速さがあったところ。「ふだんとは逆なんですよね」と阪口は決勝に向けた好材料を語った。

幸い、今回のレースはタイムスケジュール上、フリー走行から午後の公式予選までに時間があり、チームは大湯の細部の詰め、そして阪口の速さ向上へ改良を進めていった。



QUALIFY 公式予選

8月24日(土) 14:45~15:27 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'32.416 / #39 大湯都史樹 1'32.091

この日のモビリティリゾートもてぎは、事前の天気予報では午後には雷雨の恐れがあった。各陣営とも予報を注視しながらインターバルを過ごしたが、幸い雲は増えたものの雨は降らず、午後2時45分からの公式予選を迎えた。

気温35度/路面温度46度という暑さのなか迎えた予選Q1のA組に出走したのは大湯。まずは一度ピットに戻った後、チェッカーに向けてアタックラップに入っていた。

大湯はまずセクター1でこの時点での最速タイムを記録すると、セクター2~4とも素晴らしい速さを披露。1分32秒616というタイムでチェッカーを受けた。

直後にタイムを伸ばしたライバルがいたことから結果的には3番手になったものの、それでもしっかりとQ2に進出することになった。

続く午後3時からのB組に出走したのは阪口。こちらもまずは一度ピットに戻り、残り5分のタイミングで再コースイン。アタックラップに入っていたが、この時点で前回も発生していた電気系トラブルが再発してしまった。

ただ、電源を一度落とすと復旧。再度アタックに向かっていく。ここで阪口はセクター1で最速タイムを記録し、さらに各セクターで好タイムを記録。1分32秒833を記録した。この結果5番手となり、こちらもQ2進出を果たすことに。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台がそろってQ1を突破することになった。

午後3時20分からスタートしたQ2は、やや陽が傾きはじめてのものの変わらぬ暑さのなか迎えた。阪口、大湯の2台が揃ってコースインし、一団となってウォームアップを行った後、ギャップを作りアタックラップに入っていた。

続々とタイムが記録されていくなか、まずコントロールラインを横切ったのは大湯。1分32秒091までタイムを縮

め、その時点でのトップに躍り出した。しかし、その後2台が大湯のタイムを上回ることになり、結果は3番手。第4戦富士に続く2戦連続の3番手につけることとなった。ただ、ポールポジションとの差はわずか0.096秒。上位ながらチーム、そして大湯にとっては悔しい結果となった。

一方の阪口は大湯の直後に1分32秒416を記録。最終的に11番手という位置につけた。

午前のフリー走行を終えたところで、大湯は「トップ3に入れる」、阪口は「トップ10に入れるかどう

か」と自身が語っていたが、その予想に近い結果となった。

大湯は3番手から優勝を、そして阪口はトラブルをしっかりと解消し、上位進出を目指したい8月25日(日)の決勝レースだが、予選日以上に読めない天気予報となっている。この日も予選後、強い雷雨がもてぎに降った。

そんな時こそチームの総合力が問われていく。翌日のレースに向け一致団結して準備を進めた。



COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「フリー走行の感触から7～8番手くらいのグリッドを期待していたのですが、それよりも下がってしまったので少し悔しいですね。予選Q1で前回同様の電気系のトラブルが出てしまって。すぐに復旧したのでアタックはできたのですが、それがなければQ1でも3番手くらいにはつingることができたと思います。ただその後はQ2に向けたアジャストがうまくいかなかった印象です。序盤3戦まではQ1からQ2に上げることができていたのですが、それができなくなっている原因を突き止めなければなりません。ただ、今回レースペースは良さそうなので期待したいと思いますし、オーバーテイクシステムやストラテジーを使って表彰台を目指したいです」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「ひと言で言うと悔しい予選でした。今回もてぎに入る前から、トップ3で戦えることをみせたいとチームと準備をしてきたので、それが形になったことは良かったのですが、ただやはり今回も僅差でポールポジションを獲ることができなかったですし、自分としてはクルマのポテンシャルを含めポールを獲れる確信をもっていたので、3番手はやはり悔しいですね。Q1ではそれまでの課題を修正できたのですが、それでも足りなかったところもあるので、明日に向けてまた修正したいです。今季は一戦一戦、レベルを上げていくことを意識していて、今回も進歩を感じられているので、優勝してポイントを獲りつつ、その過程も大事にしていきたいと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「惜しい感じが続きますね。大湯選手が一瞬ポールポジションかと思いましたが。ただ決して悪い位置ではありませんし、安定して前の予選順位にいるので、順調なのではないかと思ます。明日優勝を飾ることができるようにしたいと思います。一方の阪口選手については、前回もあった電気系トラブルが起きてしまいました。明日に向けてできる対策はしっかり行いたいと思っています。阪口選手も調子が良かっただけに残念ですし、申し訳ないことをしてしまいました。明日はしっかりトラブルフリーで戦えるようにしたいと思います。決勝は天候が読めないところがありますが、どんな状況であれきちんと対応したいです。明日も応援よろしくをお願いします！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第5戦モビリティリゾートもてぎ 予選結果

Pos.	No.	Driver	Team	Engine	Q1	Q2
1	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.543	1'31.995
2	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.270	1'32.074
3	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.616	1'32.091
4	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.597	1'32.151
5	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.550	1'32.173
6	64	山本尚真	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.786	1'32.238
7	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.897	1'32.248
8	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.674	1'32.278
9	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.845	1'32.307
10	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.739	1'32.379
11	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.833	1'32.416
12	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.912	1'32.517
13	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'32.914	
14	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'33.064	
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'32.960	
16	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'33.252	
17	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'33.025	
18	19	N. デ・フリース	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'33.804	
19	55	大津弘樹	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'33.262	
20	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'34.284	
21	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	2'03.954	